

日々の授業で使う教材や教具。隣のクラスや隣の学校のあの先生は、一体どんな使い方をしているのでしょうか？このコーナーでは、気になる教材活用術を紹介します。

効果倍増
わたしの教材活用術

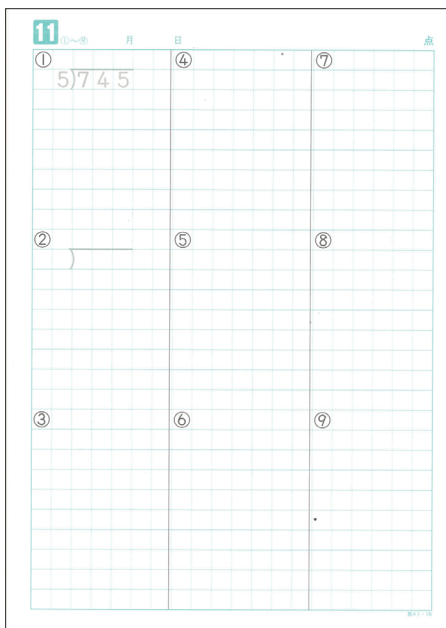
「らくらくノート」ではじめる らくらく学力向上！

茨城県つくば市立大曾根小学校教諭 野淵 光雄

「この教材は面白い！」

4年生の学習指導で活用するため、計算ドリルを見ていると、それまで見たことがない、計算ドリルに準拠したノート『らくらくノート』が新学社の計算ドリルに添えられています。

▶ 「らくらくノート」本誌



「家庭学習が徹底しない…」
「ノートの使い方に学級差がある。確認を何度もしなければならない…」
「きれいなノート作りがしたい…」
これまでに抱えていた指導上の課題が、『らくらくノート』を開いた瞬間に解消された気がしました。

実際に子どもたちへの指導に、私なりに工夫しながら取り入れると、子どもの基礎学力の向上に結びつけることができました。

これから具体的な指導例を取り上げながら、教材活用術として紹介していきます。

その1 授業ノートを既習活用！



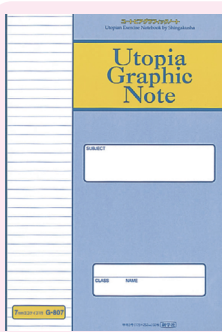
算数は、既習をもとに新たな仕組みや性質を考える教科です。ノートに書くことは、自分の考えを表現したりまとめたりする過程を通して表現力を高める目的と、次の学習でノートを見返して既習活用できるようにする目的があります。

考えやまとめが計算練習と一緒にであると、どこを見返してよいのかわからなくなります。中学年は計算練習を必要とする学年のため、年間に使用するノートは莫大な冊数になります。

そこで、算数で使うノートを、

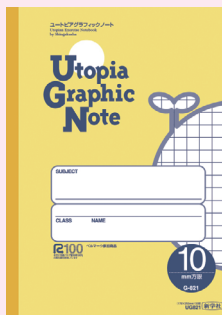
- ①『授業ノート』
- ②『らくらくノート』
- ③『計算ノート』

と、3つのノートに区別して学習場面によって使い分けるようにしました。



①授業用
授業における
「問題」
「自分や友だちの考え」
「まとめ」
を書くためのノート

②家庭学習用
ドリル学習1回目を行うためのノート



③計算練習用
授業や家庭学習において計算練習やドリル学習2, 3回目を行うためのノート

これで、授業ノートは年間3冊程度に収まり、子どもが授業ノートを学習中に積極的に見返す習慣ができました。授業ノートが、既習活用の役割を担うようになりました。

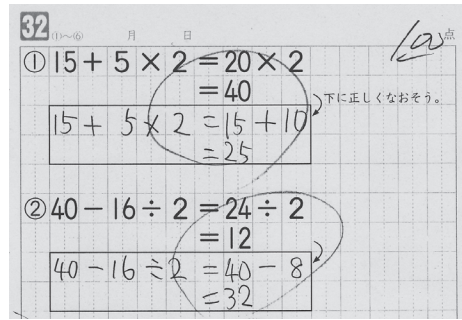
その2 正しい数の表記が身につく!



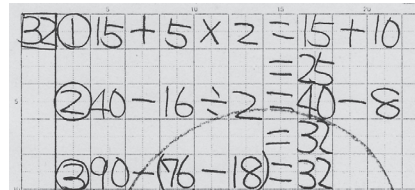
『らくらくノート』は、範例を示したり、なぞり書きを取り入れたりしているため、子どもが数や式の表記を身につけることをサポートしています。

4年「式と計算」を例に挙げて考えます。この单元では、四則が混合した式や()を使った式を学びます。四則混合の計算習得においてのつまずきは、計算が複雑なことと、計算順に式が正しく表記できないことが原因となります。

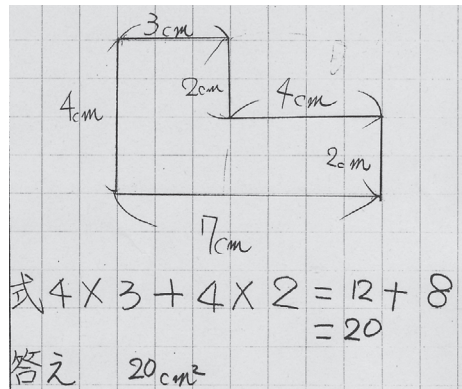
①授業ノートで



②計算ノートで!



③授業ノートに...



授業

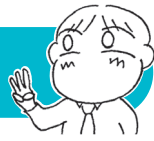
家庭学習『らくらくノート』

自主学习「計算ノート」

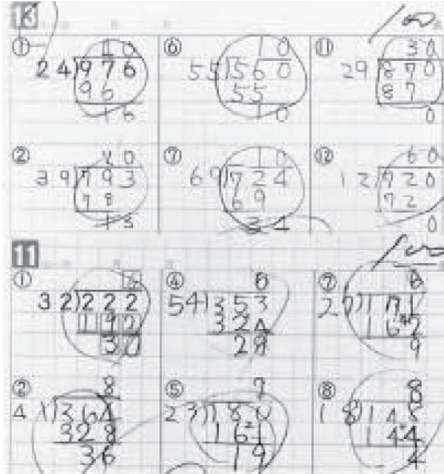
私が子どもに示した「授業と繰り返し学習のステップ」で、子どもは正しい式の表記や計算の手順を確実に身につけました。そのため、式の変形など表記によるつまずきを減らすことができました。

③は、その後の「面積」の学習です。「式と計算」で身につけた正しい式の表記を、合併の考えとなる式に活用して「授業ノート」に説明できるようになっています。

その3 計算技能が確実に定着する!



第4学年は、「わり算」の筆算を学習し、整数の演算を完成するととても重要な学年です。私は、4年生までの整数の四則演算の習得を「パーフェクトスキル」と銘打って、その定着を図っています。



その日に学んだ計算の練習は、その日の家庭学習の課題とします。子どもが授業で学んだ十進位取りの仕組みにもとづく筆算の大切な計算原理やポイントを、『らくらくノート』で押さえながら、習熟するようにしていきました。ノートのマス目を意識して書くことで、位取りの考えがしっかりとしたものとなり、なぞったり、マスキングされている□に数を入れたりすることで、立商などのポイントが身につきます。子どもが授業で押さえたポイントを、家庭で再度確認できる構成が、計算技能の習得に一役買ってくれました。

大切なところでは、「ポチ・タマ」のアドバイスがあり、子どもの学習が停滞したときのきっかけを得るためのヒントとなっていました。

商の一の位が0になる
ときは、0をかきわす
れないように気をつけ
てね。



その4 家庭学習が習慣化する!



私は、「自学ファイル」というファイルを活用して、子どもたちの家庭学習の充実のための支援をしています。

計算練習に関しては、下のような「計算ドリルチェック表」をそのファイルにとじ込んで、子どもの取り組みに応じてシールを貼って確認と励ましをしています。(漢字ドリルも同じように支援しています。)

2学期計算ドリルチェック表							
2回は必ずやりましょう!							
番号	宿題で らくらくノート	自分で 計算ノートに 2回目	自分で 計算ノートに 3回目	番号	宿題で らくらくノート	自分で 計算ノートに 2回目	自分で 計算ノートに 3回目
2	月日	月日	月日	26	月日	月日	月日
3	月日	月日	月日	27	月日	月日	月日
4	月日	月日	月日	28	月日	月日	月日
5	月日	月日	月日	29	月日	月日	月日

『らくらくノート』を家庭学習の課題として取り入れると、計算ドリルへの取り組み状況が確認しやすくなります。教師、保護者、そして子ども自身がどこまで学習を進めているのかよくわかるため、計算ドリルが抜けなくできます。

1回目のドリル学習を『らくらくノート』に行い、2・3回目は「計算ノート」に自主学习として行うようにして、家庭学習の習慣化を図りました。



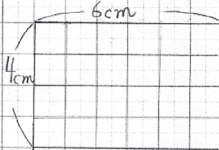
その5 子どもの表現力が高まる!



子どもは、数や式・図での正しい表記を身につけ、ノートを使い方や表現の仕方を意識するようになります。

① 計算で面積を求める方法を考えよう

① 長方形



式 $6 \times 4 = 24$

答え 24cm^2

② 4cmの中に、1cmが4こ入っています。6cmの中には、1cmが6こ入っている。なので、 4×6 で、 24cm^2 になる。

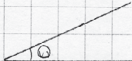
すると、子どもの「授業ノート」もかわっていくようになります。

マス目に合わせて式や位などの書く位置を意識したり、図や記号などを丁寧に書いたりするようになります。

このような積み重ねによって、自分の考えを算数らしい表現や表記で行えるようになっていくのです。

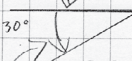
次の角度をくふうしてはかろう。

①



② 80° より大きく分度器がそのままでは使えない角度

説明 180° をこえているのでまず 180° になるようにせんをひく



つぎにせんをひいたところと 180° をこえているところをはかる

そして 180° と 30° をたして 210 になる。

*子どもの学力向上のために

以上が、私の『らくらくノート』を活用した、子どもの学力向上のための教材活用術です。

教材は、そのまま子どもに与えるのではなく、目的と指導法、子どもの実態など、必要に応じ、教材の価値を見極めて工夫をして活用することで効果を高めるものです。

また、日々の授業で教科の本質やねらいを達成する授業を行わなければ、教材の効果も薄れてしまうでしょう。一つ一つの授業の充実と、優れた教材のよりよい活用が、子どもにとっての「らくらく学力向上」につながるのではないのでしょうか。

(22年度までの教材を使った実践例です。)

